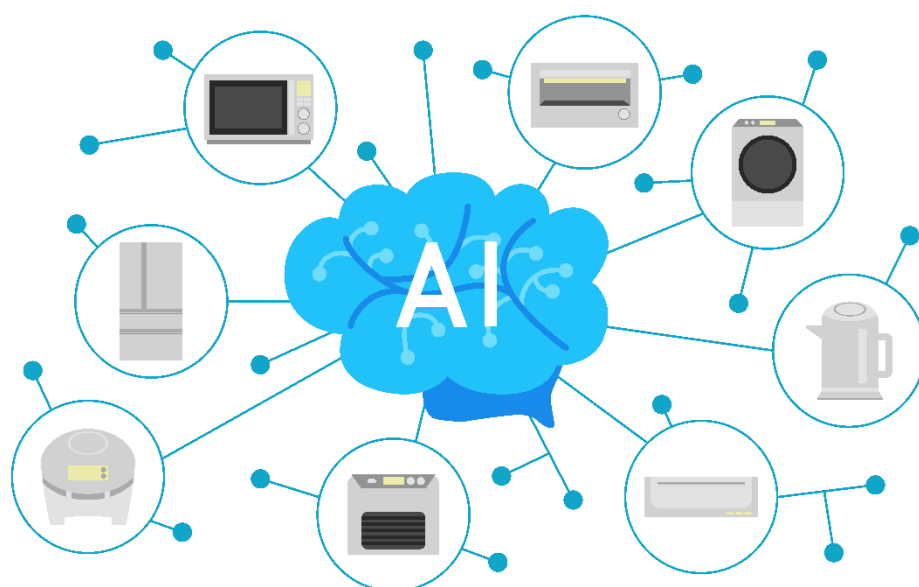


令和 5 年度

第 53 回 宮崎県私学教育研修会



研修会記録とアンケート結果

主催 宮崎県私立中学高等学校協会

全 体 会

1. 時 間 10:30 ~ 12:00
2. 演 題 『「変革」の時代に試される私立中学高等学校の教育』
3. 講 師 ひらかた くにゆき
平方 邦行（一般財団法人日本私学教育研究所所長）



【経 歴】

2013年4月～2021年3月

工学院大学附属中学高等学校 理事・校長

2016年6月～2021年3月

一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長

2021年4月～

一般財団法人日本私学教育研究所 業務執行理事・所長

【公 職】（2023年4月現在）

日本私立中学高等学校連合会 常任理事

一般財団法人東京私立中学高等学校協会 常任理事

東京私学教育研究所 所長

独立行政法人大学入試センター 大学入試共通テスト企画委員会 委員

文部科学省 大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 委員

4. 講師紹介 持 永 一 美（宮崎県私立中学高等学校長会副会長）
5. 謝 辞 土 肥 隆 夫（宮崎県私立中学高等学校長会副会長）

I SOCIETY5.0 経済発展と社会的課題の解決

- ・戦後 78 年の中で、大きく変わる節目がいくつもあった。その中の 1 つが 1989 年だった。
- ・変革の時代であることを意識しているのか。日々変化する世界で教育は非常に大きな問題を抱えている。
- ・教育はすべてのもとになっていると言っても過言ではない。
- ・今の若者は Z 世代、中学 1 年生は α 世代とも言われている。ジェネレーションギャップが大きいことを自覚しなければならない。
- ・2030 年以降は Z 世代の年代である。デジタルネイティブであり、グローバルネイティブである。また、プライバシー保護の意識が高い。9.11 や 3.11 を経験しているので、社会課題の意識が高い。
- ・2030 年問題を解決する教育：(Thinking of Emotion,Rhetoric,Art,Math,Innovation Systems Thinking)
- ・教育における Well-being とは、21 世紀型教育に欠かせない。
- ・創造性あふれる若者を育てるため、教育に探究活動が導入され、ICT 活用が重要になった。1889 年以降は経済面でグローバル資本主義に進むと先進国のほとんどは考えた。現代は今までになかったことが起きる変革の時代である。
(映像) 人間とマシンの協働について

2 経営管理の基本的課題と諸問題／教育水準の向上と経営の安定

① 経営管理の基本的課題と諸問題

(a) 入学定員の確保 (b) 授業料と助成金 (c) その他

- ・高等学校は全国に 1307 校。入学定員は 40 万 7500 人、入学者は 33 万 9900 人、充足率は 83.4%。大阪の一件は経営権の侵害である。私学の授業料を行政が勝手に決めている。大変だろうが私立学校の生徒たちをいかに世界で活躍させられるかを一番に考えて、教育をしていただきたい。

② 教育水準の向上と経営の安定

(a) 世界標準の授業 = 21 世紀型教育 Creative School or First School

- ③ Creative School なのか First School なのか。クリエイティブな若者を育てることを主眼にする教育か、一部のエリートを育てて、エリートがけん引していく組織を作っていくことか、Creative School を作っても、ファーストクラスになる生徒は絶対出てくる。しかし、First School を目指すと、そこで挫折し、深く心に傷を負う生徒もたくさん出てくる。どちらを選ぶのかを学校として深く議論し、方向性を出さなければならない。世界は Creative 経済の方向に進んでいる。

(b) Global Native & Digital Native

- ④ グローバルネイティブとデジタルネイティブ、Z 世代の子どもたちは両方にあてはまる。

ましてこれからの α 世代は、生まれながらにしてこの 2 つを身に付けながら成長していく場合が多くなる。

(c) 生成 AI (Chat GPT) の活用・Digital 化

- ⑤ 生成 AI やデジタル化をどう扱うのか。つい最近まで「良くない」と言っていた人たちも、今は意見が全く違う。発展していく分野であり、どのように付き合っていくのが重要。教育の中で無視することはできない。

①と②に共通 … 塾主導入試市場から私学主導入試市場へ

◇私立学校の経営はどうなっているのでしょうか？

・私立学校であれば、職員全員が経営を考えていかなければならない。少子化の中で、入学定員の確保は大きな課題になる。大学への進学率は50%、大学入学者にはまだ50%余裕がある。しかし、高校はほぼ全入状態で余裕がない。国がこれから活躍する人材を育てなければならぬとしているのなら、助成金が大きな意味を持つ。公立学校はすべて公費で賄っている。

①入学定員未充足校の割合は71.6%。定員充足率は平均で83.4%

②基本金組入前当年度収支差額がマイナスの高等学校は全体の44.7%

③令和3年度高等学校 事業活動収入額（生徒一人当たり平均額）は全国平均で120万6000円、生徒納付金は57万9400円。

④令和3年度高等学校 事業活動支出額（生徒一人当たり平均額）

・1人当たりにかかる金額 宮崎は105万円

・私立学校教育の原点 … 自由・自治・自立（私学の源流）

・私立学校の教育を護る（私学経営権） … 先見性・先進性・独自性・私立学校振興助成法（1975）

・私学の経営権を守ることは、私学の教育を守り責任を果たしていくということである。

先見性と先進性。そして、独自性は各校独自のものであり、それぞれの学校で違ってよい。

・私立学校の経営権を安泰にする。 … 新次元私立学校のデザイン（2050）

・私立学校振興助成法が大きく寄与した。私立学校振興助成法により私立学校の経営が劇的に変わった。この数年後から私立学校の個人所得が一気に改善された。2050年になるまでに、経営権を安泰にしなければならない。

◇私立学校政策の課程＜国家の私立学校政策の歴史過程＞

・私立学校令（1899）＝私学撲滅政策 … ガバナンス問題等々

・私立学校令（1899）は1947年の3月まで続いた。私立学校を学校制度として認めたが国の監督下に置いた。私立学校は官学の補助機関としての位置づけをはっきり法令の中で定められた。

それに対して、何かある場合は結束して戦っていかなければならないという意識を持つことが必要。大阪問題は、ほかの県にも波及する恐れがある。あとはガバナンス問題。私立学校は困難なところと闘う立場にある。その時は一致団結して戦っていかなければならない。

・私立学校令（明治32年8月3日勅令第359号）は、1899年（明治32年）

8月3日に公布、翌8月4日より1947年（昭和22年）3月31日まで施行された日本の勅令。

公布・施行から第二次世界大戦終了後の学制改革直前まで、日本の私立学校を統制し続けた。

・日本に学校ができたのは何のため、そしていつ頃？

1872年（明治5年） … 学制発布

1889年（明治22年） … 大日本帝国憲法発布（明治憲法）

・大日本帝国憲法発布（明治憲法）→ 東アジア最初の立憲君主国家＝民主主義国家

・私学と官学が誕生。これ以前に私塾があった。私塾では高い志があった。それは、公権力とは無関係な民間人が将来の国を考えて作った。

・私塾は高い志、そして最終的な人類の理想を求めた!! 1500以上の私塾があった。

・個々の私塾の理念・理想は後の「私立学校」の「建学の精神」に通じるものがある。

建学の精神、建学の覚悟

5

高大接続と大学入学試験 〈例〉日本と海外では

- ・ 講義型（一方通行型授業） → PBL（双方向型授業） ※探究なき授業で良いのか？
- ・ 大学入試（仏バカロレア）の哲学試験では、「芸術活動は世界を変えるか」について4時間かけて挑戦する。ChatGPTは一瞬のうちに回答を示す。しかし、現在はChatGPTは分析までできるが、未来のことには答えられない。すべて過去のものに基づいたものであることに注意すべきである。バカロレアのような問題を出すためには、常日頃どのような授業をしているのだろうか。バカロレアはなぜ哲学が必修なのか。「考える自由」を手に入れるためであるとされている。
- ・ 1789年フランス革命により、自由・平等・博愛が誕生した。
- ・ 21世紀型教育の原点と本質とは … Golden Rule
- ・ 21世紀型の教育の原点と本質は人類の原点でもある。
「己の欲するところを人に施しなさい。（マタイ7章12節）」国連の本部にあるモザイク画に添えられている言葉である。

6

人類は終末期を回避できるか

- ・ 1968にローマクラブができた。成長の限界、地球の有限性を表している。SDGsの原点はローマクラブにある。
- ・ 学習の分類（記憶→理解→応用→分析→批判→創造）における批判や創造を、授業のなかで扱わなければならない。
- ・ 日本の高等学校のカリキュラムの深さ
- ・ カリキュラムマネジメントは、教務ではなく専門の部署を作って対応していかなければならない。実行力を生み出す精神が必要である。

7

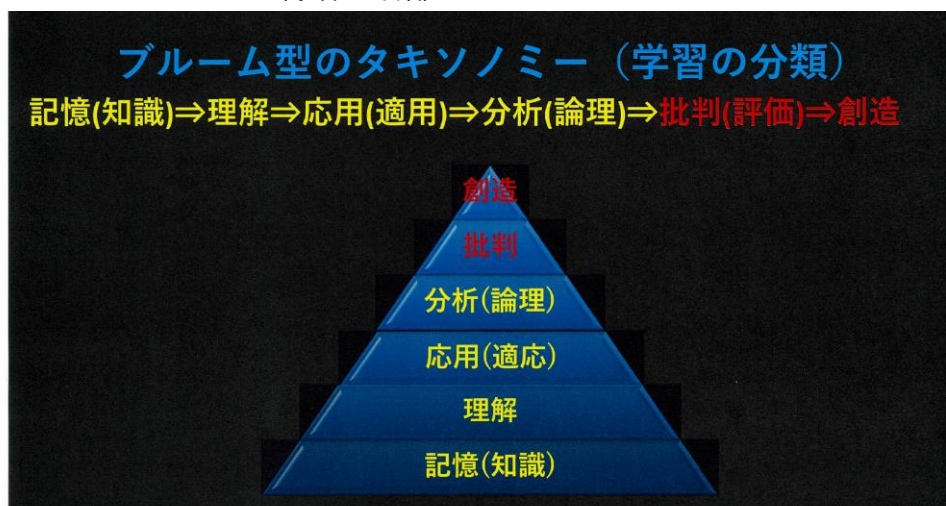
テクノロジーの進化した未来はどうか

- ・ 今日目指す教育は21世紀型教育であり、自由は必要であるが、パワーハラスメントはあってはならない。AIやテクノロジーは必要である。

8

思考コード（講演時のプレゼン内容のみを掲載しています）

- ・ ブルーム型のタキソノミー（学習の分類）がベース



・思考コード（2014年 工学院大学附属中学校高等学校）

社会・世界 Project	Design & Action	C1	C2	C3
↑ 挑戦	Critical Thinking	B1	B2	B3
↑ 学校・机上 Subject	Learning	A1	A2	A3
		知識 knowledge	活用・応用 application	駆使 full use
		創造 → 貢献		

・思考コードの例 ※講演では「織田信長」でしたが、「ザビエル」で代替え

変換操作	全体関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選び年代の古い順に並べなさい。	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたのか、200字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行って、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますか。600字以内で答えなさい。
複雑操作	カテゴリー	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい。	キリスト教を容認した大名を一人あげ、この大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルとしたら、布教のために何をしますか。具体的な根拠と共に400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純 1	(ザビエルの写真を見て)この人物の名前を答えなさい。	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい。	もしあなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか。200字以内で説明しなさい。
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



(首都圏模試センター)

・首都圏模試センターの思考コード

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

・2科目～4科目入試の思考コード（左）、新タイプ入試の思考コード（右）のコア領域

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

・私立中高一貫校の授業（左）と、私立中高一貫校の探究・教育活動（右）の思考コードのコア領域

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

・大学の一般選抜（左）と、大学の総合型選抜（右）の思考コードのコア領域

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

関係全体 & メタ認知	C1	C2	C3
複雑な関係	B1	B2	B3
単純な関係	A1	A2	A3
	知識 理解	応用 倫理	批判 創造

国際バカロレア (IB)

C軸 Subject
B軸 Subject
A軸 Subject
C軸 EE
B軸 EE
A軸 EE
C軸 CAS
B軸 CAS
A軸 CAS
C軸 TOK
B軸 TOK
A軸 TOK
C1 多言語

21世紀型教育現在進行形

C軸 教科
B軸 教科
A軸 教科
C軸 論文
B軸 論文
A軸 論文
C軸 進路×部活×行事
B軸 進路×部活×行事
A軸 進路×部活×行事
C軸 探究×LA×STEAM
B軸 探究×LA×STEAM
A軸 探究×LA×STEAM
B2 英語

完全21世紀型教育

C軸 教科
B軸 教科
A軸 教科
C軸 論文
B軸 論文
A軸 論文
C軸 進路×部活×行事
B軸 進路×部活×行事
A軸 進路×部活×行事
C軸 探究×LA×STEAM
B軸 探究×LA×STEAM
A軸 探究×LA×STEAM
C1 英語

20世紀型教育

B軸 教科
A軸 教科
B軸 論文
A軸 論文
C軸 進路×部活×行事
B軸 進路×部活×行事
A軸 進路×部活×行事
B1 英語

※言語は、CEFR基準 それ以外は、思考コード基準。色が濃いほど実施割合が高いことを示しています。

9

変革の時代に未来の学びをデザインする ～20世紀型教育からの脱却～

20世紀型の教育は、大量の知識の習得や、過去の経験の追体験を重視していました。しかしそれだけでは、未来に起こる問題は解決できないはずで、2019年から続く新型コロナウイルスの流行はまさに、「予測不能」な社会現象の最たるものの一つですが、子どもたちは未来の局面に遭遇した時に、的確に判断できる豊かな想像力を学校教育の中で身につけねばなりません。これまで行われてきた知識偏重の教育や過去の経験に頼るばかりでは、未来を切り開くことはできないのです。

変容する社会を生き抜くためには、「自己変容型知性」を身につけ、自身を磨く仕組みづくりと、向上心を持ち、粘り強く努力を続けることのできる「Growth Mission」を持つことが不可欠です。そのために教育の中心に据えるべきは、批判・創造的思考力といった高次思考であり、レクチャー型の授業だけではそれらは習得できません。

(要約：宮崎 IPT)

第 I 部 会

ICT 活用授業実践研修

ICT 教育環境の導入・充実に伴い、ICT 教育をどう推進していくかは、宮崎県内私学においても早急に解決すべき大きな課題の一つです。

私学独自の「建学の精神」に則った教育を、いかに時代の変化に対応しつつ実践していくのか、本研修にて ICT 教育の可能性を模索し、県内私学の ICT 教育推進のヒントになればと考えています。

1. 時 間 13:00 ～ 16:30
2. 会 場 3階「海 峰」
3. 日 程 13:00 ～ 開会挨拶（宮崎第一高等学校）
 13:15 ～ 15:30 授業実践発表（7名） ※途中休息有り
 15:45 ～ 16:15 研究協議
 16:20 ～ 16:30 閉会行事
4. 発表者及び科目等（日章学園高等学校）

順	発表者	学年	教科科目	授業内容
1	後藤 大輝	1	公共	労働環境と課題
2	黒木 温子	2	言語文化	羅生門
3	吉村 祐	1	数学 I	二次関数
4	津田 文人	1	製菓実習	ガトーショコラ
5	谷口 良二	1	自動車実習	エンジンの分解と組み立て
6	入船 満	3	体育	バスケットボール競技
7	久嶋 征子	1	手芸	裁縫（UD、AD）

5. 注意事項

※研修では「アンケートシステム」を利用した参加型の研修を実施します。

※参加者は Wi-Fi 接続可能な機器（パソコンまたはタブレット）を持参してください。

※会場では人数分の電源を確保することは難しいため、使用する機器のバッテリーは事前に充電を済ませでの参加をお願いします。

第 1 部 会 (記 録)

1 開会挨拶（宮崎第一高等学校 一丸 謙蔵 校長）



2 授業実践発表（日章学園高等学校）

① 1年生「公共（労働環境と課題）」 後藤 大輝 先生

ポイント



- ・プロジェクターは2画面使用（教材とアンケート状況を表示）
- ・今回は一人2台のタブレットに挑戦
→生徒所有のiPadと共用iPad（アンケート用）
- ・ワードクラウドや投票機能を使って生徒の理解度をリアルタイムに確認しながら授業を展開。
- ・生徒は自分の考えをtweetすることで普段発言の少ない生徒の意見も吸い上げ、生徒が全員参加できる環境を構築
- ・MetaMojiを使ってワークシートの書き込み状況を確認


② 2年生「言語文化（羅生門）」 黒木 温子 先生

ポイント

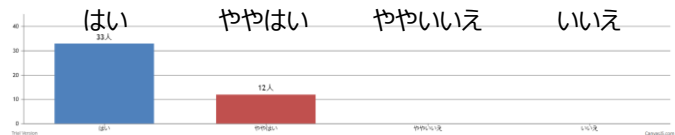
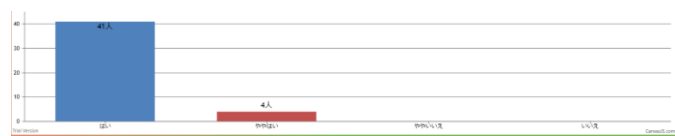
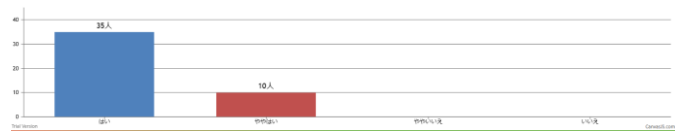


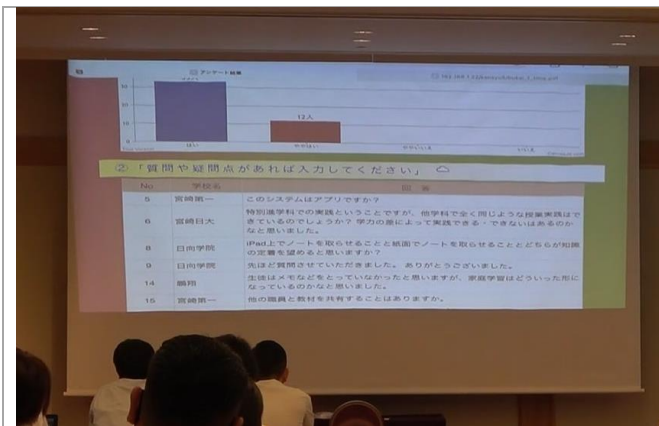
- ・今回の授業は単元最初（内容理解）の部分
→難しい言葉の説明のない段階で「コンテンツ」を用意し、自分たちなりの理解の上で紙芝居を制作。
- ・紙芝居完成後、生徒たちがどう感じたか。
→詳しい説明がないまま、生徒たちが何を感じたかを発表
- ・「利己主義」このテーマを、詳しい説明無しで紙芝居制作で感じとってくれた
- ・ロイロノートとCanvaを利用
→ICTツールを使うことで生徒たちの考える時間（活動）や教師と生徒の対話も増加

<p>③ 1年生「数学Ⅰ（二次関数）」 吉村 祐 先生</p>	<p>ポイント</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・標準形：$y=a(x-p)^2+q$ 定数 a、p、q の変化によるグラフの変化は学習済み ・一般形：$y=ax^2+bx+c$ の b に着目 定数 a、c の変化によるグラフの変化は想像しやすいが、b の変化によるグラフの変化は、これまで数学Ⅰでは扱ってこなかった。 ・定数 b の変化によるグラフの変化を GeoGebra で確認することで、頂点の座標が放物線を描いていることに気づく ・一般形から標準形に平方完成し、一般形の頂点の座標を出すことで、確かに頂点の軌跡は放物線を描くことを確認 ・GeoGebra を用いることで、生徒は想像し、目で確認し、その結果を検証するといった流れの授業展開ができた。
<p>④ 1年生「製菓実習（ガトーショコラ）」 津田 文人 先生</p>	<p>ポイント</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配合表と重要ポイントをロイロノートで配布 ・教師の説明時にもう一人の先生が iPad で動画を撮影 ・実習中は教師の動画をスクリーンに映し、生徒は iPad の配合表を確認しながら実習を行う ・教師は、各班の実習をチェックしながら iPad に記録 ・完成後に各班ごとに反省をまとめ、スクリーンで振り返り ・3年間を通し実習の内容が保存されるので、卒業後の財産にもなる ・紙ベースでの実習から各段に実習がスムーズになり、継続した実習が実践可能となった。
<p>⑤ 1年生「自動車実習（エンジン分解）」 谷口 良二 先生</p>	<p>ポイント</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめてのエンジン分解の実習授業 ・実習場には講義室と実習場が隣り合わせに設置してある ・iPad で工具の写真と名称等の確認 ・実習は暑い中で行うが、クーラーのある講義室も用いることで健康管理もしやすい。その講義室では iPad があるのですぐに講義に入りやすく、切り替えがしやすい。 ・実習中の動画は授業を休んだ生徒にも配布するため、授業を欠席した生徒の学びに抜けが出にくくなった。 ・今後、さらに振り返り等での活用を実践していきたい。
<p>⑥ 3年生「体育（バスケットボール）」 入船 満 先生</p>	<p>ポイント</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館は Wi-Fi 環境と AppleTV、スクリーン設置済み ・今回はスポーツが苦手なクラスを選択 ・ゾーンディフェンスを取り入れることで、全員参加型の授業 ・グループでディフェンスの形を考え、実際の試合は2Fから iPad で撮影し、戦術通りになっているか、何点得点されたかなどから次の戦術を話し合う ・全体の振り返りのあと、アンケートを実施 ・自分の動きや他の生徒の動きを客観的にみることできる ・普段参加できない生徒も積極的に参加できた

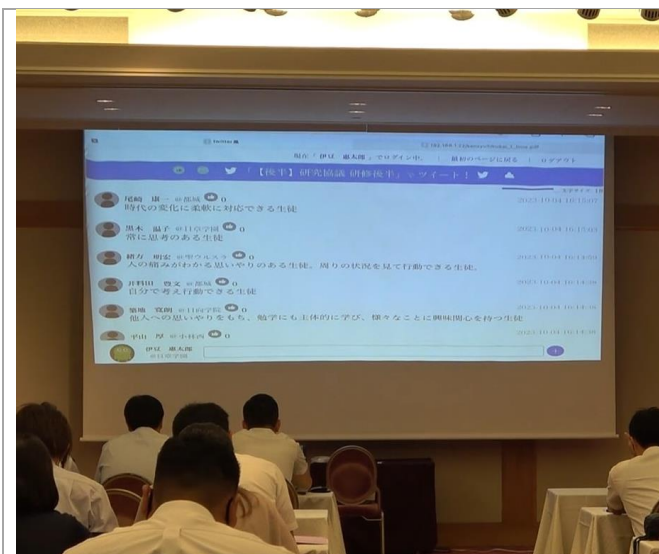
⑦ 1年生「手芸（裁縫）」 久嶋 征子 先生	ポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒は小中学校の特別支援学級で支援を受けてきている ・SoftBankの魔法のプロジェクト（ICT教育の原点） →ICT機器を用いて個々の生徒に合わせた教材、授業 ・UD（ユニバーサルデザイン）とAD（アクセシブルデザイン） ・個々の生徒に最適化（個別最適化）された学びの実現を目指す ・「玉結び」→5種類の太い～細い紐、色も異なる紐からアクセスしやすい教材を選び、ステップアップしながら「できること」を増やしていく ・動画の手本（左利き右利きを準備）を見ながら、再生速度も生徒がアクセスしやすい環境・教材を準備 ・通常クラスにもいる多様な学び、特別な支援の必要な生徒だけでなく、全ての生徒の学びに有効であり、アクセシブルの視点を持ってICT環境・教材を準備していくことが大事

3 研修中のリアルタイムアンケート結果（各授業発表後）

順	発表者	教科科目	ICT教育の授業実践として役に立つ情報はありましたか？
1	後藤 大輝	公共	
2	黒木 温子	言語文化	
3	吉村 祐	数学 I	
4	津田 文人	製菓実習	
5	谷口 良二	自動車実習	
6	入船 満	体育	
7	久嶋 征子	手芸	



- ・アンケートシステムの結果をもとに質問に答えていく形式
- ・ICTツールを活用した授業をポジティブに実践していく
- ・1人1台タブレットが実現したら自宅での活用も増える
- ・CP科の数学の授業では Metamoji、GoogleClassroom、Microsoft365 をメインに chromebook を活用
- ・体育での iPad の活用で生徒は喜んで参加。運動量の確保の面も授業の工夫次第であり、特に問題ない
- ・特別な支援の必要な生徒であっても、タブレットは全く問題なく使用できる
- ・授業以外にも毎日の宿題（復習）に使ったり、HR の連絡や時間割の配布等で毎日活用



= あなたはどのような生徒を育成したいと考えていますか？ =

急激で予測不能な変化を続ける現代社会、新学習指導要領の完全移行による学びの種類の変化だけでなく、生成 AI を含む Digital 環境に生きる生徒たちの学び方の変化を前に、私学独自の教育をどう推進していけばいいのか。この劇的な転換期だからこそ、今、各学校における私学独自の建学の精神に立ち返ることが大事だと感じています。「人間の教育」・「10年・20年後の社会を生き抜く力を身につけることができる人間を育成する教育」として、私立学校の果たす役割は益々大きくなっていくと感じています。だからこそ、最後に「あなたはどのような生徒を育成したいと考えていますか？」を質問させていただきました。ICT教育はICTツールを使うことが目的ではなく、教育の目的はもっと高次元にあることを前提での授業研修会となればと考え、今回の研修会を企画しました。この研修会をきっかけに、各学校においても「新時代の教育」にチャレンジし続けることこそが、宮崎私学の新しい教育の推進につながると信じてやみません。

第 2 部 会

ICT 教育環境 EXPO

ICT 機器や教育支援アプリ等の情報が不足しがちな本県に、ICT 教育に関連する様々な業者に協力をいただき、ブース形式にて自由に情報収集の場を EXPO 形式で提供します。これから ICT 教育環境を構築していく予定の学校はもちろん、既に導入している学校にとっても環境の改善に有益な情報を得る機会になればと考えています。

1. 時 間 13:00 ～ 16:00 ※終了後は撤去作業になります

2. 会 場 2階「オーチャード」

3. 日 程 13:00 ～ 開会挨拶（都城高等学校）
13:15 ～ 16:00 EXPO 参加（随時休息）

4. 出展企業 ※『 6. 「ICT 教育環境 EXPO」出展者情報 』を参照

5. 注意事項

※EXPO では「アンケートシステム」を利用し、参加者の意見を随時反映させる環境で実施します。

※参加者は Wi-Fi 接続可能な機器（パソコンまたはタブレット）を持参してください。

※会場では人数分の電源コンセントは準備しません。使用する機器のバッテリー充電は事前に済ませておくようお願いします。

第 2 部 会 (記 録)

1 開会挨拶（都城高等学校 久保 壮史 校長）



2 会場の様子



第 3 部 会

ICT 専門家による実践研修

2022 年 11 月 30 日にプロトタイプとして公開された生成 AI「ChatGPT (OpenAI 社)」。
自然言語処理をもとにした会話能力や文章生成能力、プログラミング生成能力の高さに
世界は衝撃をうけました。そして現在、早急に対応が求められているのが教育現場であり、
本研修では生成 AI の理解に加えて、生成 AI の活用まで踏み込んだ研修を予定しています。

1. 時 間 13:00 ~ 16:30 ※途中休息あり
2. 会 場 3階「瑞 洋」
3. 講 演 題 『生成 AI の教育現場への影響と活用』
4. 講 師 ふくはら まさゆき
福原 将之 (FlipSilverLining 社 代表)



【経 歴】

教育・ICT コンサルタント、株式会社 FlipSilverlining 代表。
1982 年生まれ、理学修士。東京大学大学院理学系研究科天文学科を
修了後、博士課程を満期退学。その後、教育アプリの開発に関わり、
IT ベンチャー企業の取締役最高技術責任者、経営コンサルタントを
歴任。2013 年 10 月に株式会社 FlipSilverlining を設立。
現在は小学校・中学校・高校の教育・ICT コンサルタントとして、
アクティブ・ラーニングと ICT の導入支援、講演活動、研修会の
開催、そして執筆活動に従事している。

2023 年 9 月、書籍「教師のための ChatGPT 入門」を出版。

ブログ「福原将之の科学カフェ (<https://kagakucafe.com>)」では、教師や保護者に向けて
教育情報を日々発信している。

5. 開会挨拶・講師紹介・謝辞 鵬翔高等学校

6. 注意事項

※事前に「ChatGPT」のアカウントを取得しておいてください（厳守）。

※参加者は Wi-Fi 接続可能な機器（パソコン、タブレット、スマホ）等
を持参してください。

※Wi-Fi が利用できない場合も考えられますので、その場合はスマート
フォン（LTE/4G/5G）等での接続をお願いすることもあります。

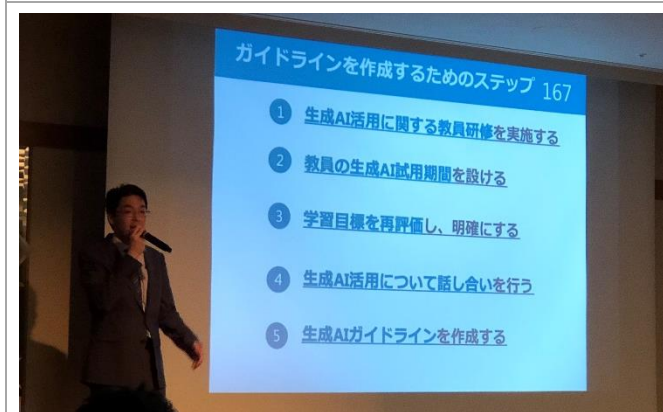
※会場では人数分の電源コンセントは準備しません。使用する機器のバッテリー
充電は事前に済ませておくようお願いいたします。

第 3 部 会 (記 録)

1 開会挨拶（鵬翔高等学校 土肥 隆夫 校長）



2 研修の様子

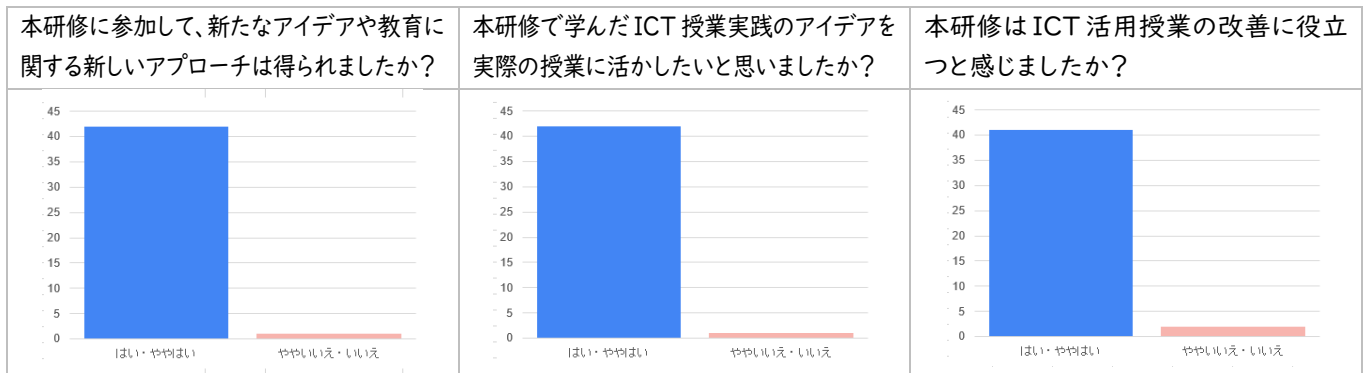


研修後アンケート

※本資料では紙面の関係もあり、一部の回答及びテキストマイニング(名詞・動詞・形容詞)で代替えをしています。
 全ての回答の詳細については、校長会(令和5年11月2日)にて報告を済ませていますのでご了承ください。

▼各部会の参加者数とアンケート回答数 ※ () はR4

	第1部会 ICT活用授業実践	第2部会 ICT教育環境EXPO	第3部会 生成AIの影響と活用	計
参加者	55 (40)	51 (40)	57 (40)	163 (120)
回答数	43 (4)	32 (9)	31 (9)	106 (22)
回答率	78.2% (10.0)	62.7% (22.5)	54.4% (22.5)	65.0% (18.3)



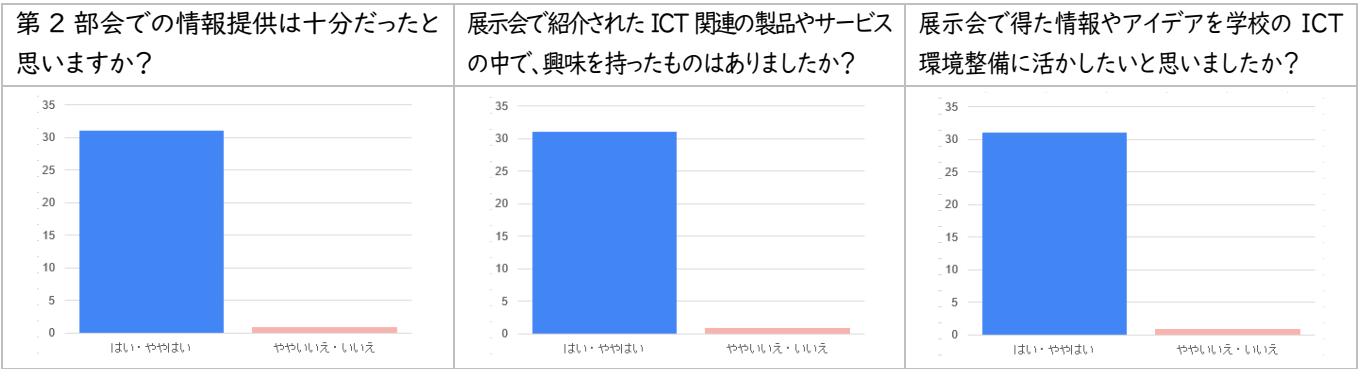
※「いいえ」の回答はなし

▼各学校における ICT を活用した授業において、課題があれば記入してください。

設備や授業準備および生徒の理解度	ICT を活用した子どもたち主体の授業を行うのが難しい。
生徒に買わせているタブレットの使用率が低い気がする。	思考コードを見据えた授業展開を考えていきたい。
各教科で実施しているのに、情報共有をできていないと感じました。	プロジェクターやスクリーンなどの機器整備を全ての教室に均等に行うには、時間と費用がかかります。
研修の時間が取りにくいです。	授業中にほかのことをやってないかなど心配なところ。
設備投資の負担や教員間のスキルの差	メディアリテラシーの育成等、生徒のモラルを育むことも必要かと思えます
まだ1人1台のタブレットではないので、思うようには使えないのが課題。	小・中学校で使用してきた生徒も多くなってきているので、教師側が使いこなせないと話にならないという緊迫感がある。

▼リアルタイムアンケートについて

授業者が聞きたい事項を事前に設定することで欲しい情報が得られると思いました。生徒がメインとなる探求的な内容が今後増えると思うので、生徒がアンケート内容を考えることもどう質問するとどう返ってくるかなど実践的な学びができると思いました。	リアルタイムアンケートに関しては、小テストの意味合いで、授業の終わりに本時の内容を復習して、理解度を確認することができるのではないかと思います。 質問の内容が授業の中で一番理解してもらいたいことであれば、振り返りを含めて、生徒たちの記憶にも残り、まとめとして重要なことを反復することができると思いました。 (質問の仕方、内容が重要になるとは思います)
発表の途中でも活用できると、より活発な議論が行えるかもしれない	授業中にわからない生徒が意思表示をすることに使いそうな気がします。
生徒の意見を聞きたいとき	授業での理解度調査など
はじめに自由に思ったことを記入してください。と言って自由に記入してもらっても面白かったかもしれません。	ワードクラウドは非常に興味深かったです。授業の中で使えるような方法をご教授いただければありがたいです。 (ソフトやサイトの情報など)

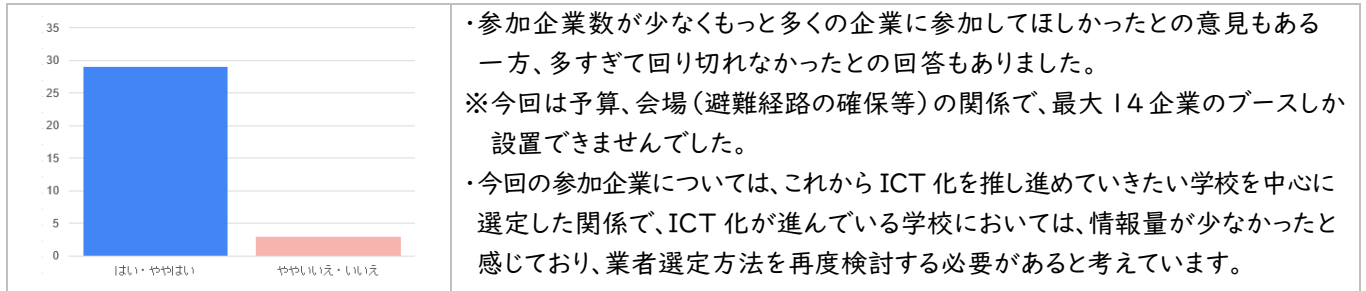


※「いいえ」の回答はなし

▼貴校のICT環境整備における課題があれば、具体的に記入してください。

まだまだ教師側の勉強の必要があると思います。	校舎のネットワーク環境の整備(3)
予算の問題	起案などの稟議書の電子化など
いろいろと便利なツールがあって環境整備については欲を言えばきりが無いのですが、いずれもかなり経済的な負担が必要だということが分かりました。	本校の課題としては、一人一台の端末がない。情報教育に詳しい職員も少ない。

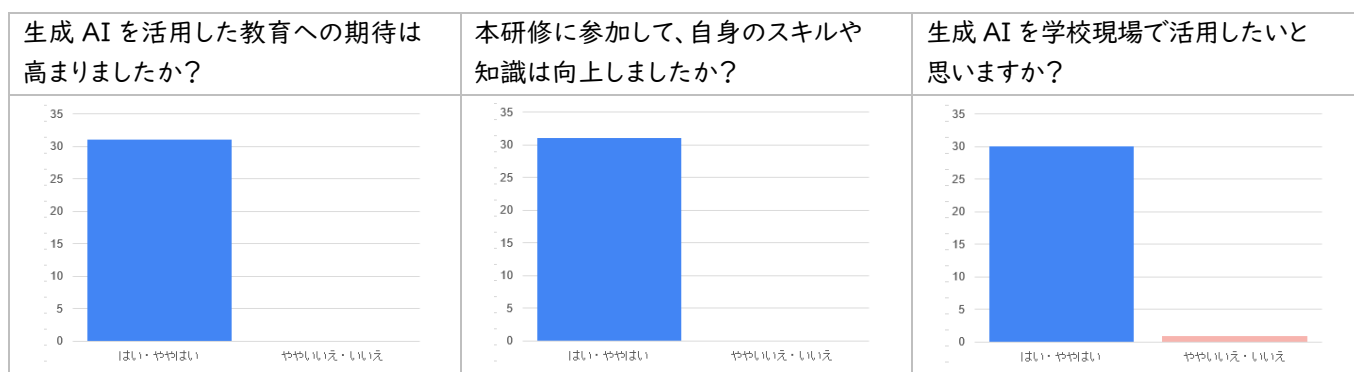
▼来年度も「ICT 教育環境 EXPO」を実施して欲しいですか？ に対する回答と意見



※「いいえ」の回答はなし

▼本研修の感想





※「いいえ」の回答はなし

▼本研修の感想

生成 AI の技術は日進月歩で変化していくと思うので、最新の情報を常に学んでおきたいし、具体的な授業での活用事例についても情報が欲しいと思います。	全体会・分科会を通して、未来を見据えた教育が必要だと痛感しました。そのために私たち教員が、常に最新の情報を吸収し学んでいかないといけないと改めて思いました。
ChatGPT について非常に勉強になりました。かなり業務の時間を短縮でき、なおかつ、子どもたちの活動においても活用できると思います。これから ChatGPT を導入できるのが楽しみです☺	知る前は、抵抗感や危険性を感じる面がありましたが、活用する上での基本やプロンプトを教えてもらい、利用する価値は多岐にわたると思いました。
初心者にもわかりやすく、即、実践出来そうな内容で、とても楽しい講義でした。生成 AI の成り立ちも理解できて、時代についていけそうです。福原先生の話が面白く、あっという間でした。	今後の仕事の在り方、時間、内容等を劇的に変えてくれる、素晴らしい研修会でした。多くの知識を得ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございます。
今回の研修は、今後の教育を大きく変え、教員の働き方改革にも大いにつながる研修だったと思います。参加させていただいて本当に良かったです。早速、授業や公文書の校正などに ChatGPT を使用していますが、慣れていなかったり質問力不足で、まだまだ効果的に利用できていないのが現状です。今後、メリットデメリットをきちんと把握した上でこのツールを上手く活用し、生徒や生徒たちの将来のため日々努力していきたいと思います。	第3部会では、生成 AI の有能性だけでなく弱点を知り、実際に使ってみたことで、その活用法を習得することが出来ました。AI 格差の話も大変興味深いものでした。貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。
学校および職員に関する問題点の指摘とアドバイス、スケジュールの策定と管理等にも活用できると思います。	授業案や何か考えを整理する際に使用したい。ただ、そのまま使用するのはではなく、あくまでもたたき台としての活用を考えています。
	実際に生成 AI を活用した授業の見学会ができる一番です。生成 AI について、排除するのではなく、どう利用していくのかをしっかりと考えるきっかけになりました。



▼係り受け解析

※係り受け解析では、「名詞」に係る「形容詞」「動詞」「名詞」についての解析結果を表示します。
 「スコア」は、出現回数やその係り受け関係が全組み合わせのうちに占める割合などを複合的に判断し、
 独自に算出した数値です。「スコア」が高いほど、よりその係り受け関係が重要であることを示します。

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
参加 - 良い	ポジティブ	0.36	3
講演 - 良い	ポジティブ	0.18	2
内容 - 濃い	ネガティブ	1.00	1
共有 - 欲しい	ネガティブ	1.00	1
資料 - 欲しい	ネガティブ	1.00	1

名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
活用 - 思う	0.53	5
準備 - くださる	2.00	2
未来 - 見据える	2.00	2
方法 - 知る	1.20	2
刺激 - 受ける	0.86	2
積極 - いく	0.32	2
授業 - いく	0.32	2

名詞 - 名詞	スコア	出現頻度
大変 - 有意義	2.73	5
私学 - 参加	0.71	4
教育 - 参加	0.71	4
導入 - 検討	2.00	2
時代 - 変化	2.00	2
重要性 - 認識	2.00	2
内容 - 共有	1.20	2
内容 - 充実	1.20	2

※今回の記述式アンケートの分析(テキストマイニング)には、下記のツール(無料)を利用しています。

 **User Local** AIテキストマイニング
<https://textmining.userlocal.jp/>

▼具体的なコメント(抜粋)

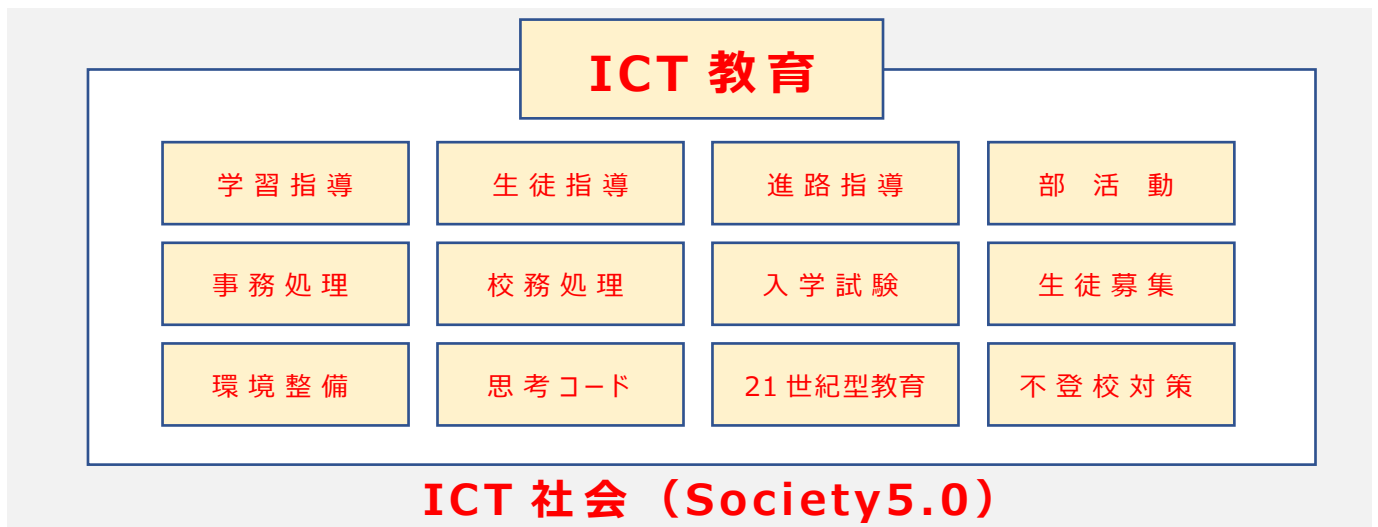
21 世紀型教育や AI 教育など、今を生きる生徒に必要な教育を学ぶことができました。未来を見据えた教育ができるように学び続けたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。	これまで参加した私学研修会の中で一番良かった研修会だと思います。これまでが駄目だったというわけではなく、今回の研修会がとても時代に合った研修会だったと思います。
実際の授業での活用例を通して、さまざまなことを学ぶことができました。ありがとうございました。	未来の準備のために必要なことがわかりました
初めての参加でしたが、有意義な研修となりました。今後よろしくお願いいたします。	午後についても普段はなかなかゆっくりと話す機会の少ない業者の方々から直接機材やアプリの説明を聞いて、大変有意義であった。
これからの教育に求められていることを講演や部会を通して理解することができました。	平方様の講演の内容がとても良かったです。時間の関係でご準備されていた内容全てを消化しきれませんでした。是非最後までお聞きしたかったです。
多種多様な企業様のお話が聞け、有意義な時間でした。	授業で「こんなことができないだろうか?」と思っていた内容が多く、参加して良かった。
ICT がテーマということで初めて参加させていただいたのですが、全体会の講演も、2部会も大変有意義な時間を過ごすことができました。次回以降も ICT 部会として残すべきだと思います。ありがとうございました。	昨今の教育現場に不可欠な内容であったと思うが、宮崎県は他県より遅れていると思うので、教員に対してもっと積極的に活用するよう働きかけていけばと思う。
まだまだ宮崎が遅れてしまっているため、このような研修はどんどん行うべきだし、研修があるなら参加を促していくべきだと思います。少しずつ問題点をあげていき、PDCA サイクルを先生方も行うべきだと思います。	実践された7名の先生方がタブレットを有効的に、効率良く使っていたことに非常に感心しました。非常に勉強になりました。また、個人的に、リアルアンケートの構築方法、プログラムを知りたいと思いました。
各教科の先生方が、授業の中で様々な工夫をされて取り組まれていらっしゃることに、刺激を受けました。私自身、保健体育の授業の中で、まだまだ活用できる部分があるのではないかと考えていましたが、もっと工夫し、活用していきたいと思いました。	まだまだ勉強不足だと感じました。公立の小中・県立高校に遅れをとっているのではないかと不安はありましたが、今学校としてICT 環境を進める中で私たち、特にX世代が学ぶべきだと感じました。今回の内容が全職員で共有できるよう工夫したいと思います。非常に実のある研修でした。ありがとうございました。
午後の分科会が以前とは違い ICT を柱に構成されていたので、教員の興味関心に即した分科会に参加することができました。そのため、以前より意欲的に研修会に参加できたと思います。	とても有意義な研修でした。20 年後に活躍する生徒たちを育てるために、ICT 教育は必要不可欠です。自分たちが取り残されないように研修を積み重ねていきたいです。ありがとうございました!
全体会も第2部会もサイコーでした!!! 来年度も平方先生のご講演をお願いします。	ゼロからスタートした私学研。無から有を生み出すエネルギーがいかに膨大であるか。しかし、このことはこれからの社会で生き抜く力そのものでもあり、そういう生徒を育成することが求められているのも事実だと思います。
素晴らしかったです。おつかれさまでした!! 20 年前の自分の受けた教育よりも 20 年後の世界で子供たちが生き抜けるように。刺さります。子供たちにも新しい使い方などを教えてもらわねば。と思いました。募集もまさにそこです。精進します。	研修会に参加して、大変有意義な時間となりました。今後の学校現場で、いかに研修会での内容を具現化できるかが課題だと思います。日々の業務に追われるだけでなく、10 年先の未来を見据えた教育を皆で考えながら試行錯誤できる時間を作って行きたいです。大変、ありがとうございました。
参加して、得るものが多い研修会になりました。準備をしてくださった先生方、講師の先生方ありがとうございました。	私は今後の教育及び学校自体の必要性など今本的に考えられました。

<p>ICT をメインテーマにした初めての研修でした。全体会から各部会まで途切れることなく同じテーマで研修できたことが良かったと思う。実施要項の中にどのような研修内容なのか明記しており、研修を受ける側にとってもわかりやすかったと思う。私は、第 1 部会に参加したが、他の部会もどのような研修だったのか気になっています。</p>	<p>自分でも実践してみたいが、どのように形にすればよいか悩んでいたのが、良いヒントになりました。大変有意義に感じました。</p>
<p>今回の私学教育研修会に参加して、午前中の平方先生の講話は、興味深いものがありました。午後の部会では、ブース形式で興味のある所の話が聞けて、ICT 教育環境を整えるための情報収集ができてとてもよかったです。</p>	<p>私学学校の将来性について、その具体的な展望や可能性を見たように思う。</p> <p>懐疑的だった先生方も中にはいたかと思います。その方々も本研修に参加して、刺激的な時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。私自身は本当に濃密な時間となり、出た課題をパスするためにまた時間を費やそうと思いました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。</p>
<p>良い研修だったので再度 ICT 研修を実施してほしい</p>	<p>今回の取り組みが発展すると良いと思います。期待しています。</p>
<p>この研修をきっかけにタブレットをより積極的に活用していきたいと思った。</p>	<p>非常に満足しております。次年度もご準備大変でしょうが、よろしくお願い致します。</p>
<p>時代は、常に変化しており、子供達も進化した時代に対応している。私達、私学職員も多くの刺激をこの様な研修会で受け、授業をブラッシュアップさせていくべきだと勉強させていただきました。参加できて、よかったです。</p>	<p>ただ受講するだけの「いつもの研修」とは違い、参加型の研修は、記憶に残るものとなりました。一つでも自分の明日からの授業に活かせるような内容を、自発的に盗むというか活かすことができたのは、今回の研修の大きな成果であり、このような研修が「本当の研修」であってほしいと強く感じます。</p>
<p>企画から運営までお疲れ様でした。県内私学が公立に負けない、公立の上を行く ICT 教育について本校でも真剣に考えていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>	<p>大変有意義な研修でした。ありがとうございました。これぞ研修という形になり、他の先生方にもどんどん参加してほしいです。</p>
<p>現在行っている授業に NO を突きつけられた気がします。時代の変化に乗らなければならないのでしょうか。chatGPT は使いこなせれば楽になりそうですが…道は遠いです。</p>	<p>準備に積極的に関係して下さった先生方がいたことが、素晴らしいと思います。ホットな話題ですが、いざ自分が挑戦するとなると尻込みする先生も少なくありません。前向きな活動を後押ししていきたいと思えます。</p>
<p>とても内容の濃い、考えさせられた一日研修でした。知識や理解を教え込むだけでなく、批判的・創造的思考を身に付けさせるための「思考コード」を踏まえた教育が今後は必要であるという話が印象的でした。予測不可能な社会になりつつある今、生徒の想像力を養うための教育の重要性を再認識しました。第 3 部会では、生成 AI の有能性だけでなく弱点を知り、実際に使ってみたことで、その活用法を習得することが出来ました。AI 格差の話も大変興味深いものでした。貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。</p>	<p>私学教育研修会の内容を時代に合わせて大きく変革するものだったと思います。</p> <p>変更規模が大きく、事前の準備等は大変だったと思いますが、それだけに内容が充実し、各学校での再現性が高い有効な研修になったと思います。</p> <p>計画をされた先生方のご苦勞は、十分推測されますが、本当にご苦勞様でした。素晴らしい研修会でした。来年度も関連した内容で開催してほしいです。皆さんに心から感謝しています。</p>
<p>講演の内容も部会の内容もとても充実していて参加してよかったですと思いました。学んだことを今後活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>	<p>初めての試みでご苦勞もあったかと思います。しかしながら、新しい研修会の創出、船出と捉えております。来年以降も期待しております。</p>
<p>今後の仕事の在り方、時間、内容等を劇的に変えてくれる、素晴らしい研修会でした。多くの知識を得ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。</p>	<p>全体会は最後のほうの話が聞きたいと思っていた内容だったため、その部分を、もっと深く聞きたかった。 (思考コード)</p>

3.11、熊本地震、新型コロナウイルス感染拡大など「想定を超える社会状況の変化」、加えて昨年11月の生成AIの登場に代表されるDigital社会の急激な進化など、先行き不透明な現代社会の変化・進化は、これまでの知識偏重・偏差値教育に重点を置いた学びだけでは対応できないことを実感させられます。

その中で、これまで建学の精神に則った教育を実践してきた私学教育は、人間形成を軸として教育を行ってきた経緯もあり、生徒たちの10年後・20年後の「生きる力」を見据えた教育を牽引できる存在であるはずで

す。このような日々変化し続ける社会に、県内私学がどう対応・適応していくのか。昨年11月実施の校長会では、「21世紀型教育」や「思考コード（新しい学力指標）」を例に、これからの社会（ICT社会）で生き抜く人材育成の必要性が取り上げられました。これからの社会に求められる教育に関連する事項は下図の通り多岐に渡り、これまでの学校教育そのものを大きく転換せざるを得ない時期に来ており、県私学研にて早急に対応することとなりました。



本研修はICT機器の操作、ICT教育環境整備など、「ICT」をメインテーマにしたものではなく、研修を通して、この変化し続ける社会における県内私学の役割・課題を明確にし、学習指導や生徒指導、進路指導をはじめ、現代（あるいは将来）のさまざまな社会変化に対応できる教育の実践を目的としています。だからこそ、時代背景を考慮した「ICT社会（Society5.0）に応える宮崎県の私学教育」をメインテーマに設定し、新しい形の研修としてスタートしました。

昨年4月に校長会にて「宮崎私学のICT教育を推進するプロジェクトチーム（宮崎IPT）」が提案、設置されました。この社会状況に対応できる私学教育を考えた場合、新しい教育を実践するための環境整備の課題をはじめ、県内私学がまずは「同じ土俵に上がる」ことが優先事項であり、同じ土俵に上がるためには、県内私学の全職員が社会の現状を把握できる研修が必要であると考え、全体会講演では『「変革」の時代に試される私立中学高等学校の教育』と題して、これからの求められる教育としての「21世紀型教育」・「思考コード」を踏まえての講演をお願いしました。

また、午後の部に関しても、全体会に即した3つの部会を計画しました。

第1部会「ICT活用授業実践研修」では、時代が求める新しい教育はICTツールを活用することで実現可能になる。このヒントとなればと考えて設定しています。

第2部会「ICT教育環境EXPO」では、時代が求める新しい教育を実践するために必要な「物理的な環境」を整備するために有効なICTツールや環境整備をメインに、情報が入りにくく比較しにくい県内に最新情報を提供する場として設定しました。

第3部会「ICT専門家による実践研修」では、昨年11月の登場と同時に教育現場に多大な影響を与えはじめた「生成AI」について、その対応が早急に求められていることもあり、実習形式の研修を企画しました。

本研修で得た内容に関しては、今後、参加者が積極的に各学校での研修等につなげていくことで、私学教育研修としても「より広く」、「より濃いもの」に、加えて本アンケートを活用することで来年につながる研修になると考えています。

県内私学で学ぶ、目の前にいる生徒たちの10年後、20年後を見据えた新しい教育研修のスタートとなればと考えていますし、本研修が県内私学の新しい視点での「気づき」になり、時代の求める教育推進に少しでも繋がればと考えています。

＝ 宮崎 IPT ＝